

令和6年度 とちぎっ子学習状況調査の結果

1. 調査の目的

とちぎっ子学習状況調査を要として、小・中学校9年間の学びの連続性を重視した本県独自の学力向上システムを新たに構築し、児童生徒一人一人の学力向上に資する。

2. 調査の内容

(1) 教科に関する調査

学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力等に関わる内容(調査範囲は、前学年までの学習内容)

- ・小学校調査は、国語・算数・理科の3教科
- ・中学校調査は、国語・社会・数学・理科・英語の5教科

(2) 生活習慣や学校環境に関する質問調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3. 調査の市内18小学校第4, 5学年児童、市内12中学校第2学年生徒

4. 調査日 令和6年4月18日(木)

5. 本市の調査結果

- ・小学校においては、県平均正答率に比べて、全体的に「やや低い」傾向にある。
- ・中学校においては、県平均正答率に比べて、全体的に「やや低い」傾向にある。

6. 学力調査の結果(県との比較)

学年	教科	平均正答率(%)	
		R6	R5
小4	国語	低い	同程度
	算数	やや低い	同程度
	理科	やや低い	同程度
小5	国語	同程度	同程度
	算数	やや低い	同程度
	理科	同程度	同程度

学年	教科	平均正答率(%)	
		R5	R5
中2	国語	同程度	同程度
	社会	やや低い	やや低い
	数学	低い	やや低い
	理科	同程度	低い
	英語	やや低い	やや低い

*当市では評価基準として、平均正答率に対し「+3以上～+5未満」をやや高い、「+3未満～-3未満」を同程度、「-3以下～-5未満」をやや低い、「-5以下」を低いとしてホームページで公開する。

7. 今後の対応

- ・「学力向上コーディネーター派遣事業」「『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり推進事業」等の学校訪問を通して、授業改善を指導助言する。
- ・授業づくり推進リーダーを中心に各教科の課題について分析したことをもとに、授業公開等を通して授業改善と学力向上実践に取り組む。